

## ハングリ－精神

八尾ニューモラル生涯学習クラブ 池上和彦

(2016年4月13日公開)

2016年初場所で琴奨菊が初優勝しました。日本人力士の優勝は10年前の栃東以来とか。少し寂しすぎます。日本人の横綱で番付に載っているのは、2003(平成15)年初場所の西横綱貴乃花が最後(この場所の貴乃花は4勝4敗1休で10日目に引退)で、その後の丸13年間日本人横綱は一人も出ていません。その原因としてよく言われるのが、日本人の生活水準が上がり、お腹を空かせている子供がいなくなり、ハングリ－精神が無くなったということです。昔はご飯をお腹一杯食べてくて苦しい稽古に耐えたが、今はそういう状況ではないという訳です。

ところで、歴史上浪花からは名を成した力士が出ていません。これも大坂は江戸時代以来「食い倒れ」の町といわれるほど、豊富な食材環境にあるからだとどこかで読んだ記憶があります。「なんでこんな苦しい稽古をせなあかんのや」とばかりに稽古に耐えかねて部屋を飛び出してしまうのです。

大坂がどれほど豊富な食材環境にあったかを、朝井まかての小説「すかたん」で覗いてみましょう。「この麺は小麦粉と塩で出来ているけど、どっちも播州赤穂の産や、出汁の昆布は遠く松前で、鰹節は土佐、ほんで醤油は小豆島、砂糖は阿波から来てる。このおあげさんの大豆は丹波で、椎茸は近江、ついでにこのうどんを作るのに使う薪は紀州の産や、どれも船で運ばれてくる」。青物を扱う「河内屋」の跡取り息子清太郎がうどんやで講釈を垂れている場面です。

話を元に戻せば、2016年大相撲春場所で番付表に載る横綱は、白鵬、日馬富士、鶴竜の3人で全てモンゴルの出身者です。モンゴル出のお相撲さんが強いのか、日本人力士が弱いのか私には分かりませんが、モンゴル人力士が弱くないことは事実であると思います。因みに言えば、幕内力士42人中、モンゴル人8人、米国2人、ロシア、中国、ブラジル、ブルガリア各1人です。